

令和6年度第1回佐世保市文化振興委員会 会議録

<日 時>

令和7年3月26日（水）10:00～12:00

<場 所>

市役所1階 イベントホール

<出席者（敬称略）>

森下 潤一（委員長）、森 馨由（副委員長）、大瀬 隆志、山ヶ城 陽子、田中 博一、池田 祐希、迎 ゆかり、朝永 武志、鶴岡 大樹、村畑 幸得

<欠席者（敬称略）>

なし

<事務局>

文化スポーツ部 吉田部長（冒頭挨拶まで）、山田副部長兼文化国際課長
文化国際課 川口課長補佐、公文主任主事、西野主任主事、本多主任主事

<配布資料等>

- 会議次第
- 資料1 第7期佐世保市文化振興委員会 委員名簿
- 資料2 第二次佐世保市文化振興基本計画（改訂版）
- 資料3 国民文化祭実施計画
- 資料4 アルカス SASEBO 施設利用休止のお知らせについて
- 当日資料 第2次佐世保市文化振興基本計画について

<議 事>

- （1）第二次佐世保市文化振興基本計画について
- （2）その他

<意見・質疑>

(1) 第二次佐世保市文化振興基本計画について

●主要文化施設の利用者数 (KPI) について

○A委員：

肌感として、コロナ禍前よりも集客は増えている。というのも、佐世保市のクラウドファンディング型プロジェクト応援事業の活用により、無料の大規模な事業を実施することができており、また、その無料の事業に足を運んでいただいたお客様が、それをきっかけに有料の事業にも来てくれるようになった。

○B委員：

コロナ禍で発展したことといえば、家にいても楽しめる状況ができたということ。そのような中で、生演奏の良さを伝えていかなければならない。しかし、コロナ禍以降、インフルエンザの流行などもあり、コロナ禍が収束しても常に感染症のリスクを心配する方が多くなってきているかもしれない。無料の公演などにより、生演奏の良さを伝えてお客様を地道に増やしていくということが大切。

○事務局：

佐世保市の主催事業として、市内の全ての小学5年生にアルカス SASEBO でオーケストラの体験等をしていただくという「子どものための芸術（音楽）鑑賞体験教室」を実施している。コロナが終息し再開した際は、開演時に子どもたちの大きな歓声が上がり、生音を超えるものはないと感じた。子どもの時からそのような体験をしてもらって劇場に行く経験を積んでもらうのが将来の投資にもなると思うので、市としても続けていきたい。

○C委員：

狭い空間に人が集まる演劇は、コロナ禍のときに責められた分野だと思う。なぜか劇場はウイルスが蔓延しているイメージを持たれているため、何か(感染症類の流行など)があるとキャンセルが多くなってしまうという状況がある。直接劇場に足を運んだ方からは「来てよかった」と言われるが、劇場に関しては、現在も感染症の影響を感じている。

また、コロナ禍後の状況として、オンラインで稽古をやるようになったり、演者がYoutubeチャンネルで活動を始めたりして、オンラインでやる楽しさを覚えてしまったという変化もある。

○D 委員：

コロナ禍で人が来なくなっているという状況は露骨に感じる。コロナ禍前は定期的に会場に行く習慣（この人が来たら必ず見に行く）のようなものがあったが、コロナ禍でリセットされてしまった。定期的にやっていた催しがゼロからのスタートになってしまっていることで、集客が難しくなっているという問題が生じている。

ただ、悲観的なことばかりではなく、新たに始まったこととして、小さい子どもを持つお母さんたちが、自分の子どもを文化に触れさせてあげたいという気持ちはすごく高まっているような実感がある。子どもたちに音楽を届けるといった団体の活動をしている際に、お母さんたちにヒアリングをすることが多く、やってあげたいけどきっかけがないという声が多いので、そのきっかけづくりをもっとしていかなければいけないと感じている。文化に触れるきっかけが増えることで、自ずと集客に繋がるのではないかと考えている。

○E 委員：

美術において、何かをやらうとしたときに開催場所がない。島瀬美術センターに予約を入れようとしたときには、すでに予約が埋まっている。美術館・博物館としてそれぞれ常設展示があったうえで、貸館業は別であるべき。常設展示・企画展・貸館を一緒に行うというのは無理がある。

また、施設が利用できない場合の代替施設は基本的にない。アルカスでも展示スペースはあるが、通路であり、美術品を置くことには適していないと思う。

佐世保市として、美術にかかわる土壌がないと感じる。とりあえず箱だけ作ってそこで何でもしようとして終わっているのでは。

○F 委員：

日本舞踊では、コロナ禍前、コロナ禍収束後の集客については変わらない。ただ、コロナ禍が関係しているのか不明ではあるが、アルカス SASEBO の中ホールの予約がとりづらくなったため、やりたくてもやれる場所がないという状況を実感している。

○事務局：

施設を増やすということはなかなか厳しいので、施設の利用方法については、何らかの工夫が必要であると考えている。今後、アルカスのチケットは、システム改修によりインターネットで予約できるようになる。そういった形で、施設の予約も利用しやすいように工夫していくことが必要だと思う。

また、島瀬美術センターについては、貸館と自主・企画事業のバランスには非常に難しいところがあり、どちらかを優先するということはできないが、そのバランスを島瀬美術センターと協議していきたい。

佐世保市として、以前から長崎県に対して、県立美術館の分館整備というものを要望しているが、なかなか実現には至っていない。

ただ、島瀬美術センターも開館から40年以上経っており、施設自体がかなり老朽化している。今の美術館を長寿命化して残していくのか、建て替えたほうがいいのか、というような今後の島瀬美術センターの在り方を検討する時期に来ていると思うので、来年度は、全国で賑わっているような美術館の事例や、それが島瀬美術センターに活かせるのか、という調査を行う。

○E委員：

ワークショップなどの開催場所として、廃校の利用はできないか？

○事務局：

教育委員会との協議が必要になる。今後の検討課題として持っておく。

(2) その他

●アルカス SASEBO の利用休止について

○D委員：

アルカスでやるはずだった催しを別の場所でやる場合に、市として資金の援助や代替場所の提供ができるものなのか。

また、アルカスや公共施設でもないようなイレギュラーな場所でやることに伴うお金(仮設ステージを組む費用など)が発生した場合に資金の援助があるのか。

○事務局

資金面の援助については、確約はできないが今後努力していきたい。代替場所の提供については、2,000名収容の大ホールに代わる施設はないため、同規模の代替場所の提供や紹介は現実的に難しい。ただ、500人規模の中ホールが使えない場合は、代わりに大ホールを使っただけ、その際の支援等の必要性についても、今後考えていかないといけないと思っている。

○D委員：

佐世保港国際ターミナルビルの空間はいい広さだと思う。また、文化遺産となっている場所で催しを行い、文化遺産とのコラボレーションのようなものができる面白い。

○事務局

具体的にこの場所でやりたいという話があれば、市として関係先と協議したい。佐世

保港国際ターミナルビルは、クルーズ船がいつ入って来るかわからないという中での予約は受けづらい状況にある。

○B委員：

多くの方がこんなに長い期間閉まるの？と心配されていると思う。全てのホールが利用できない期間をできるだけ短くしてあるとは思いますが、全ての期間全てのホールが閉まってしまうような感じがするので、例えば、この期間ここは使えないけどここは利用できます等ということが目に見えてわかると皆さんも安心すると思う。

○G委員：

施設が使えないという情報が独り歩きをしている印象があるので、誰が見てもわかる情報の提示が必要だと思う。

使えない期間がある＝その期間は文化に触れられないということになるが、子どものときに体験できなかったことはその後も意外と覚えているもの。予算の際に、議題にあがるのはハード面の大きな話になるかと思うが、小さな事業への予算の使い方もこれを機に考えてほしい。

○事務局：

利用休止中の運営については、正しい情報をアピールをしていきたい。

○B委員：

佐世保市はセンター系がすごく充実している印象がある。例えば、山澄や相浦のような小さいホール（ステージ）があるセンターについては、この期間中はルールを少し緩和していただき、コンサートやピアノの練習等に活用できるようになればいいと思う。また、施設予約方法の工夫を行い、利用しやすいような状況を作ると不安感は少し減ると思う。

○H委員

施設の職員が営利目的での貸し出しに慣れておらず、各職員で認識が違う場合がある。

○B委員：

長崎ブリックホールでは、舞台さんが大ホールに仮設の小劇場を作ってくださって、コンサートや演劇をやったことがあった。大ホールを使うときには費用面に加え、集客が難しいので、大ホールを小ホールに見えるような仕掛けを作って貸し出すようなことができれば、みんなに優しい結果になると思う。

○C委員：

演劇では何回かやったことがある。でも、そういう使い方ができることを知らない人が多いと思う。アルカスに提案されて、それだったらできるかなと思ってやったことがあったので、そういう提案をしていただけることが大事だと思う。

○D委員：

練習室やリハーサル室を小劇場にしたこともあった。

○I委員：

こういう場所がほしい、こういう支援が欲しいと言って確実に回答が出るものなのか。私たちはこのような場で知ることができているので今後アンテナを張ることはできるが、利用休止となることしか知らない他の団体さんは諦めるしかない。

佐世保市文化協会がやっている市民芸術祭は、おそらくこの期間中に中止せざるを得ない状況かと思うが、文化協会は高齢の方も多く、1回中止すると次の開催がかなり厳しくなると思うので、分散で開催できる方法などの情報を出してほしい。

○事務局：

支援に関しては、お金がかかるもの、かからないものがあるかと思うが、お金がかかるものについては、新たに予算を計上していく必要があるので、令和7年度前半ごろまでに考え方を整理したいと考えている。

どういったことができるのか、頂いたご意見を踏まえながら精査していきたい。

各団体さんに対する告知についても、まず佐世保市としてアルカスが利用休止となった時に、どのような支援ができるかを整理し財団とも共有しながら、各文化団体さんへ告知をしていきたいと思っている。

特に定期的に利用されている団体さんに対しては、わかる範囲で情報をお伝えしようとは思っている。

○J委員：

せっかくなので、これを機に、アルカスがなくてもやれることを考えるクリエイター集団になった方がいい。長期間使えないのであれば、自分たちでどこが使えるか考えて、それを市に相談するというスタンスの方が現実的な気がする。この機会を、アルカスがいないからここを使わせてほしいと言えるチャンスととらえる。例えば、予算に関して、この場所でやりたいが、中ホールと比べるとこれだけ予算がかかるから何とかしてくれないかと市に相談する、そういう仕組みを作ることが現実的ではないか。

アルカスの利用休止の議題が出ただけで、これだけ様々なアイデアが出できたので、このようなことを大事にした方が佐世保市の文化振興のためにはいいと思った。

○B 委員：

長崎市もそうだが、どこの自治体も新しいホールを欲しいと言っているが、すぐに建つようなものでもない（費用的にも）ので、今ある施設でどのように柔軟な対応をするのかということはこの期間はすごく求められると思う。

○E 委員：

何かやりたいというときに、民間のお店でそういうことができるよと言ってくれているところをリストアップして、手を結んでおくようなことはできないか。市で紹介して、交渉は自分でやってください、というような形。

○事務局：

公共施設に関しては、そのようなことをやりたいと考えていたが、民間施設についても、検討の余地はあると思う。

●ながさきピース文化祭について

○B 委員：

分野別交流事業の開催時期は調整中となっているが、どのように各団体等に募集をかけているのか。

○事務局：

資料3の実施計画は昨年9月時点のもので、実際には既に時期は内定している。ただし、情報公開は市実行委員会総会後となるため、公表ができていないという状況。各プログラムの内容や開催場所、開催日などについては、まだ広く市民の方にお伝えできていないため、情報解禁となればお知らせさせていただく。その時は周りの方々に広めていただきたい。

○I 委員：

広報計画はどのようになっているか。

○事務局：

まずは、広報させば5月号で特集を組もうとしていて、そこでピース文化祭全体に関する情報（どんなイベントか、どのような人たちが関わっているのか）を発信し、その後はSNSなどで随時周知を行っていく。また、アーケードの中のフラッグや西肥バス側面のハードラッピングも行う予定。

○J委員：

総合プロデューサーがいるわけではなく、各プロデューサーがやるようなイメージか。
どの県においても同じ構造か。

○事務局：

そのとおりである。県がグリップを握っていて、各市町で行う事業は各市町の実行委員会で決めていくような流れ。どの県においても同じ構造である。

以 上